令和４年２月
世田谷区立駒沢中学校
学校関係者評価委員会

令和３年度　駒沢中学校学校関係者評価委員会　報告書(案)

令和３年度は、昨年度からの新型コロナウイルス禍によって世界中が対策に追われ、自由な活動が制限される事態が続きました。日本では、一度は収束に近い状況になりましたが、年明けの１月にはオミクロン株の急激な感染拡大によって再びまん延防止対策が実施される状況になり、新型コロナ前の日常が中々戻らないままに過ぎてしまいました。駒沢中学校も多くの部活動の休止や年中行事が開催できない状況が続き正常な学校運営が困難な年度となりました。こうした状況下でも「学校関係者評価」が実施されましたが、今年度も昨年度同様に過去の評価結果と単純に比較検討が出来ないことをご理解ください。

令和３年度駒沢中学校学校関係者評価委員会で実施した学校関係者評価の結果および提言を、次のとおりご報告いたします。

【令和３年度学校関係者評価】

■アンケート実施期間：令和３年１０月２２日～１１月９日

■回収数(率)

	生徒	保護者	地域の方
配布数(人)	３７０	３７０	４８
回収数(人)	３４９	３０７	３１
回収率	９４．３２％	８２．９７％	６４．５８％

１　学習指導について

学習指導に関する項目では、全般的に高評価であるとともに、昨年と比べて肯定的評価が上昇傾向にあることを読み取ることができる。

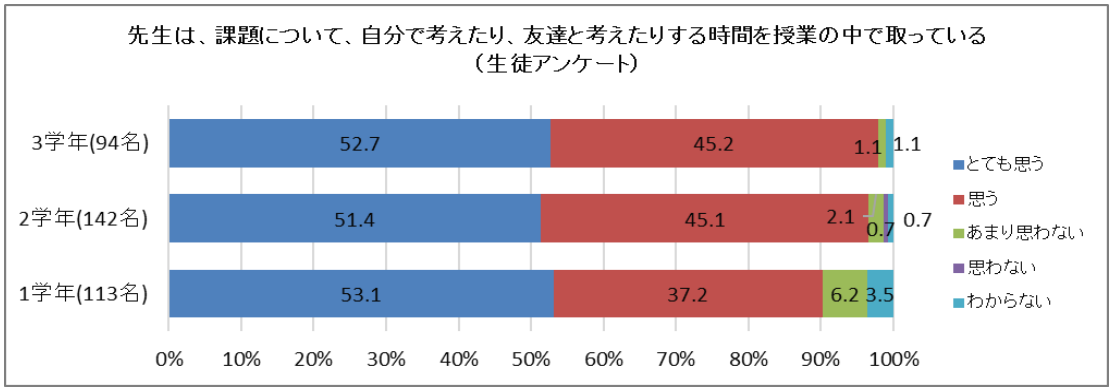
生徒アンケートによる評価と保護者アンケートによる評価を分けて次に示す。

⑴ 生徒による評価について

「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」という項目への肯定的評価(とても思う、思う)が 94.8%、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価が 92.3%(昨年度 87.1%、以下括弧内は全て昨年度数値)、「授業では考えたことを話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的評価が 94.8%(90.7%)、「先生は、提出物やテストなどをわかりやすく評価している」の肯定的評価が 83.7%(80.5%)という結果である。このことは、本校の学習指導の基本方針である「主体的・対話的な学びを推進し、思考力・判断力・表現力・課題解決能力を向上させる」に沿った学習指導及び学習活動の推進に向けて尽力してきた成果の表れと考える。学校の自己評価で示された課題のひとつである学校図書館を活用した学習活動の推進とともに引き続き力を注いでいただきたい。

しかし、一方で「先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価が 86.8%(89.6%)と高評価ながら微減している。また、本校の独自項目「タブレット端末を適切に使用して、自分の学習に役立てている」という生徒自身の自己評価では 84.5%が肯定的に評価している。

引き続くコロナ禍の中で、今後ますます期待される ICT の活用による学習活動の充実に向けて指導の継続を望むものである。



⑵　保護者による評価について

「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている」という項目の肯定的評価が 73.3%(64.6%)、「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価 59.9%(57.7%)、「本校は、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価が 77.5%(68.9%)、「本校は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価 68.1%(41.9%)となっていて、生徒による評価と同様に高い評価であるとともに上昇傾向にある。特に、「子どもは、家庭で宿題や e - ラーニングなどで学習している」という項目への肯定的評価 57.6%(44.1%)という数値は昨年度の評価結果に基づいた学校の改善方策「e - ラーニング等タブレット・ICT 活用状況に対する保護者の理解を促すための具体的方策」を推進した成果が徐々に表れていることを示している。

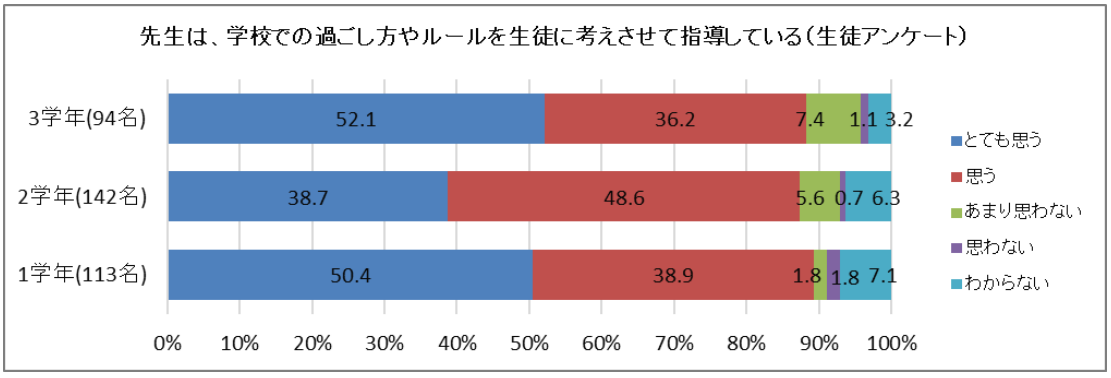
本校の独自項目のひとつである「本校の生徒は、よく学習する」の保護者による評価について、肯定的評価 55.3%(58.5%)、否定的評価 19.6%(17.3%)、わからない 25.2%(24.3%)という数値が出ている。コロナ禍において、学校参観など保護者の客観的評価が難しい状況下では、やむを得ない数値であるように思われる。

２　生活指導について

生徒アンケート「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」の肯定的評価 88.3%、「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」の肯定的評価 88.5%と高評価である。コロナ禍での学校生活の変化などでも生徒が先生の指導を信頼していると思われる。

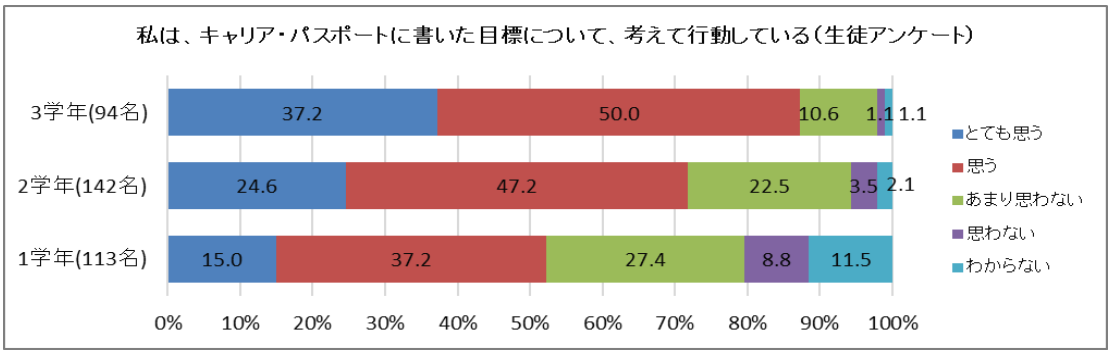
保護者アンケート「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価 79.8%は昨年度より 6.3 ポイント上がったことから、昨年度に引続き新型コロナ感染予防を心がけた生活指導の努力がうかがえる。先生は、生徒や保護者との良き信頼関係を継続していただきたい。

駒沢中学校独自項目の地域アンケート「本校の生徒は、地域において落ち着いて生活している」の肯定的評価 90.3%は高評価である。しかし、「本校の生徒は、地域活動に対してよく協力している」のわからない 22.6%は、コロナ禍で中学生が活動していた地域行事が中止になり、地域と関わる場がなくなったからだと思われる。また、地域の方々が学校行事を見に行くことができない状況も影響している。先生は、コロナ禍ではあるが、地域との良き信頼関係を築けるような工夫をしていただきたい。



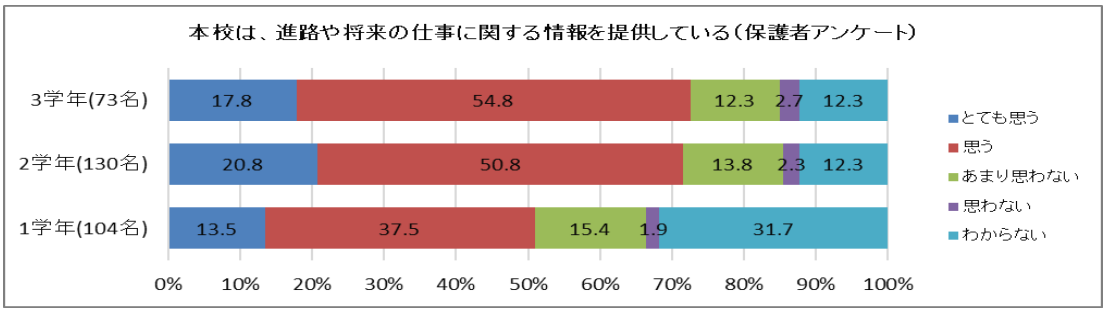
３　キャリア教育について

生徒アンケート「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している」は、昨年度までの「私は、次学年の目標について、考えて行動している」から文言が変更されている。これは、昨年度からキャリア・パスポートを作成し、活用するようになったためである。受験学年で目的意識も高くなる 3 年生では、肯定的評価が 87.2%と非常に高い。逆に、進路を考えるにはまだ比較的余裕がある 1 年生においては、否定的評価が 36.2%と「わからない」が 11.5%で、半分弱の生徒が自分が書いた目標について考えて行動できていない状況にある。そこに、キャリア・パスポートの定着についての課題があると思われる。ただし、保護者アンケート「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」では、どの学年も昨年度より肯定的評価の数値がかなり上がっており、特に 3 年生保護者では、67.7%から 85.0%に大幅に上昇した。これは、キャリア・パスポートには学期毎に保護者が見てコメントを書く機会があることで、目標や成果が見えやすくなったためではないだろうか。



続いて、生徒アンケート「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」については、3 年生は肯定的評価が 94.7%と非常に高いのに対し、2 年生は 78.1%と少し低い数字である。しかし、昨年度に続き中止になった「職場体験学習」ができるようになれば、来年度以降上がるかもしれない。ただ、今年度は代替案として、職業人（社会人）を学校に招いて仕事の話をしてもらう「職業 days」を実施した。いわゆる「出前授業」は、生徒が社会との繋がりや職業意識を感じられる貴重な機会のため、学校の柔軟な対応を評価したい。そして、この項目で毎年一番肯定的評価が低い 1 年生においては、2 年前が 48.4%、昨年度が 47.2%、今年度は 43.7%と年々下がってきている。1 年生の内から早いキャリア教育を充実させることが望まれる。また、保護者アンケート「本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある」を見ると、殊に 1 年生保護者は「わからない」が 30.8%と多く、コロナ禍で学校公開やイベントの中止・縮小で来校する機会が少なく、様子が分かりづらかったこともあるのかもしれない。

生徒アンケート「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」に関しては、3 年生の肯定的評価が 90.4%と高く、これは受験学年であるがゆえ、授業ではもちろん、模試や進学相談会などの案内が頻繁に配付されたり、校内に置かれていて手に取りやすかったりすることも影響していると思われる。気になるのは、保護者アンケート「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」において、1 年生保護者が、否定的評価 17.3%と「わからない」が 31.7%の計 49.0%、つまり約半分の保護者が情報提供に満足していないということになる点だ。コロナ禍で、3 年生保護者に限定されている「進路説明会」であるが、別会場での視聴や自宅でのオンライン参加など、学校が検討している 1・2 年生保護者への公開を今後ぜひ実現していただきたい。



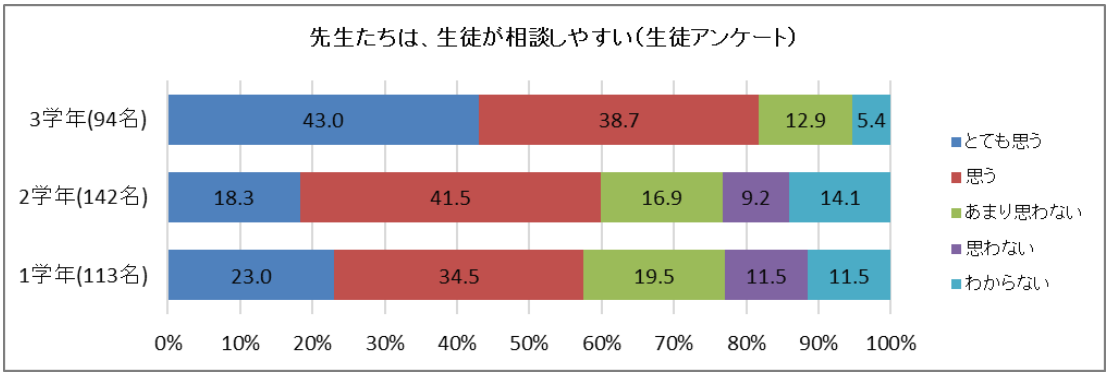
４　教職員について

今年度は保護者と生徒のアンケート結果に違いを感じられた。

「先生たちは生徒に丁寧に指導している」の生徒アンケートは、昨年と比較し、肯定的評価が 3.9%増加した。

「本校は丁寧に指導している」の保護者アンケートも肯定的評価は昨年とあまり変化はないが、否定的評価が減少し「わからない」が増加している。

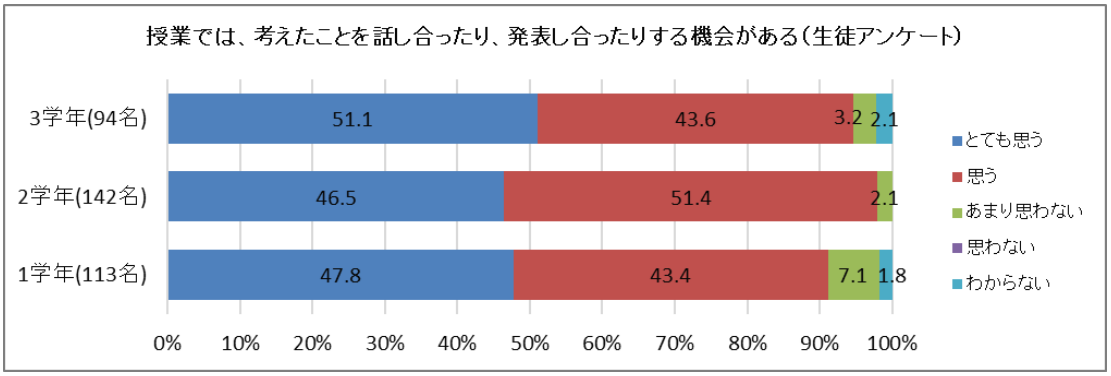
保護者アンケートの「本校は子どもや保護者が相談しやすい」は昨年と比べると、肯定的評価が 4.8%減少し、否定的評価は 2.9%増加している。しかし、生徒アンケート「先生たちは生徒が相談しやすい」という項目では肯定的評価・否定的評価ともに昨年のアンケート結果とあまり変わりはない。保護者は不安に思っているようだが実際に関わっている生徒は、先生方との関係を築いていると考えられる。



５　総括

今年度も生徒、保護者、地域を対象にして「学校関係者評価アンケート調査」が行われた。評価分析の総括は、従来は経年変化を視点に比較していたが、コロナ禍を勘案して単年度評価の視点で行った。

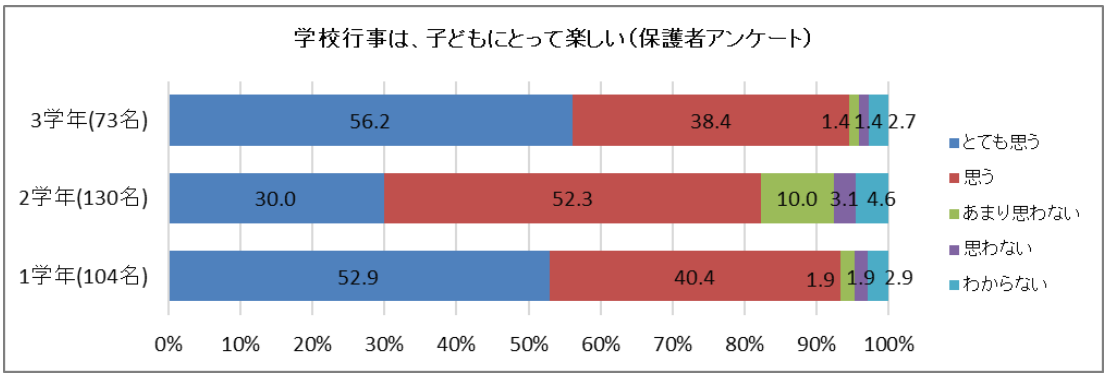
まず、生徒に対しては 34 項目の質問で、19 項目が学校運営に対して、15 項目は回答する生徒の自己評価の質問構成である。まず、学校に対する総合評価は、肯定的評価が 78.2%であり、否定的評価が 14.9%、わからないが 6.9%であった。先生の授業内容、指導、学校生活関係に肯定的評価が高い傾向であったが、進路、相談、特に、コロナ禍で実施できなかった小学校との交流行事に関しては、予想されたことであるが、昨年に続いて肯定的評価は極端に低い結果（21.1%）であった。また、部活動関係の「わからない」が多いのもコロナ禍が要因である。次に、生徒自身の自己評価は、肯定的評価が 79.2%、否定的評価が 16.9%、わからないが 3.9%であった。学校規則順守、挨拶励行などは高いが、自宅学習、e-ラーニング活用では低い傾向にあった。



保護者に対しては、48 項目の質問で、43 項目が学校運営に対して、５項目は回答者の自己評価である。学校に対する総合評価は、肯定的評価 72.6%、否定的評価 13.3%、わからない 14.1%となり、コロナ禍の影響で否定的評価より「わからない」が高くなった。授業、指導、学校生活、行事、雰囲気などは肯定的評価が高い傾向にあるが、e-ラーニング活用、タブレット活用、進路等の情報、相談、また、授業内容や黒板の書き方など情報の得にくい項目や我が子の家庭学習に対する項目に低い傾向が見られた。自己評価では、肯定的評価 62.3%、否定的評価 31.6%、わからない 6.1%となり、全項目の総合評価で保護者自身の否定的評価が高かった。特に PTA、学校行事の参加、来校回数、ホームページ閲覧回数が低かった。

最後に、地域は 17 項目の質問全てが学校に対するものである。肯定的評価 77.8%、否定的評価 9.3%、わからない 12.9%の結果であった。生徒の態度や安全面に関する項目は高い評価であるが、学校運営に関する事では様子がわかりにくいため他の項目に比べてやや低い評価となった。

コロナ禍の困難な状況の中で、校長、教職員は最大の努力と工夫を行い通常の学校運営に近づける努力を行ってきた。結果、各取り組みに対する教職員の自己評価も高く、教職員が実感するほど今までにない落ち着いた生徒の学校生活の果実が実現されている。



６　更なる改善の努力課題

（１）家庭学習の e-ラーニングの有効的活用の更なる向上。

（２）ICT の活用による学習活動の充実に向けた指導の継続。

（３）コロナ渦の状況ではあるが、幅広く全学年に向けての情報提供。